認定 NPO 法人 ビッグイシュー基金

2012 年 12 月 1 日発行

THE BIG ISSUE JAPAN FOUNDATION ビッグイシュー基金

第 5 期（2011 年9月～2012 年8月）

年 次 報 告 書

①被災地でボランティア活動　②路上脱出ガイド　③鉄道クラブ　④若者ホームレス白書２　⑤日韓交流シンポジウム　⑥音楽バンド作成「CD」　⑦歩こう会　⑧「ともに生きよう。3.11」キャンペーンロゴ　⑨書き初め（サロン）
⑩ミニコミ「被災地の路上から」　⑪若者ホームレス会議　⑫フットサル日韓交流大会

はじめに——誰もが排除されず包摂される社会へ

あなたさまはじめ、みなさまとともに活動をさせていただきビッグイシュー基金の5期目(2011年9月～12年8月)を終えることができました。

2007年9月に基金を立ち上げてから満5年、世界と日本は歴史的な激動を体験しつつあります。

2008年のリーマンショックによるグローバル資本主義破綻の危機、これに追い討ちをかける2011年の東日本大震災と福島第一原発事故などは、文明史的な事件として、私たちと社会に根底的な変化をもたらし、大胆な変革を迫っています。この間、基金では

第1期(07年9月～08年8月)
「ビッグイシューコミュニティーへ」
第2期(08年9月～09年8月)
「原点・路上からの市民運動展開」
第3期(09年9月～10年8月)
「市民が当事者になる社会へ」
第4期(10年9月～11年8月)
「ともに生きよう！東日本」

という言葉に表される活動を積み重ねてきました。

4期につづき第5期も、被災地へは、現地中間支援団体へのスタッフ派遣、路上と被災者自身に焦点をあわせたミニコミ「被災地の路上から」の発行や、派遣スタッフによる被災者自身がつくる「住民新聞」づくりの支援などを行いました。また、3回にわたる「若者ホームレス支援ネットワーク会議」には多くの市民や若者支援団体にご参加いただき、「若者ホームレス白書2」を発行し、社会的困難を抱えた若者応援ネットワークへの土台をつくることができました。誰にでも居場所と出番のある包摂社会へのチャレンジの第1歩です。

12年7月には税制優遇を受けられる認定NPOになり、市民応援会員とも相談のうえ、税制優遇を受けられる5つの寄付メニューをもうけ、さらに多くの市民にご参加いただけるよう工夫しました。

「市民の寄付額の4割弱が納めた所得税から返金される」という税額控除。いまや「公」は国だけが独占するものではなく、NPOも担い、その分、国が税の一部を寄付者に返金する時代になりました。公共の仕事を「税＝国家」でするのか、「寄付＝NPO」でするのかを、それを市民が選べるようになったのです。市民一人ひとりの寄付が社会を変える時代になったわけです。

これらの第5期の活動には、全国各地の914人の登録ボランティア、765人の市民応援会員、201人の寄付者のご参加いただき、企業や団体などからも多くのご協力やご寄付をいただきました。にもかかわらず、認定NPO法人への切り替えにもよる、第5期末の会費・寄付収入の減少から、赤字を出すことになりました。

いま、あまりにも大きな世界の変化や変革のまえでは、私たちの活動はささやかなものと感じられるかもしれません。しかし、私たちがいま、「70億人のうちの1人である」(ダライ・ラマ14世)という自覚に徹した時、世界は変わるのではないでしょうか。

これまでの、あなたさまはじめ、みなさまのご参加、ご協力に感謝し、心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。

2012年12月1日
認定NPO法人
ビッグイシュー基金
理事長

佐野章二

目次

はじめに	2
目次・活動概要	3
今期重点事業	4～5
今期活動報告	6～11
決算報告	12～13
ビッグイシュー基金とは	14
市民応援会員、寄付のご案内	15

第5期（2011年9月～12年8月）の活動概要

東日本大震災の余燼（よじん）がまだまだ治まらないなか、第5期の活動が始まりました。4期では大震災への対応として、現地との連携をベースに市民活動団体への緊急寄付、現地へのボランティアの派遣活動、中間支援団体へのスタッフの長期派遣などの他、被災地とその外をつなぐことを意識した「ともに生きよう！東日本」キャンペーンなどを行いました。

第5期では、この4期の活動を引きつぎ、東北の中間支援団体へのスタッフの派遣を継続するとともに、時間とともに人々の関心が薄れるなか、路上に焦点をあてた情報を発信しようと、現地の市民団体と共同してミニコミ「被災地の路上から」を3回にわたり発行、被災地外への発信をしました。第4期はあえて被災地・被災者支援一辺倒の活動を行いました。今期はプログラムを再度見直し、以下を柱に事業を進めました。

①ホームレスの人々の自立応援
②ホームレス問題解決のネットワークづくりと政策提案
③ホームレス問題解決へのボランティア活動と市民参加

基本事業①の自立応援では、リーマンショック以降雇用が減り、出口が厳しくなり生活保護への傾斜や就業の意欲の低下などが見られるようになりました。困難な状況になるなか専門性をもつ外部の団体や組織の力をかり連携しながら事業を展開しました。

また、基金の特色である文化・スポーツの活動でも他団体と連携し、路上文学賞の実施、日韓サッカー交流、ダンスチーム公演、音楽バンドなど社会的にも注目される活動を行いました。

また、当事者によるいくつかの自主的クラブ活動も生まれました。

②のネットワークづくりでは、若者ホームレス支援委員会と市民参加による集会を持ち、その成果を「若者ホームレス白書2」（1万部発行）にまとめ社会に提言しました。

また、この作業に若者支援などに関わる26の活動団体が集い、事実上の、社会的困難を抱える若者応援ネットワークをスタートさせることができました。これらは事業①の自立応援を支える有力な連携先でもあります。

③の市民参加では、①②の活動について914人のボランティアとともに、当事者や地域や社会に働きかけました。市民と当事者をつなぐ有力なツール「路上脱出ガイド」は、東京、大阪でそれぞれ改定第2版、名古屋でも改定版を制作、発行しました。

このような活動を受け、2012年7月1日から、基金は税制優遇を受ける認定NPO法人になりました。これに伴い、市民応援会員にアンケートを行い、その意向も受けて税制優遇を受けられない5つの市民応援会員メニューを2つにし、新たに税制優遇の対象となる5つの寄付メニューをつくりました。しかし、第5期の終わりには、この改革による制度の切り替えもあってか、会費・寄付収入の減少などがあり、赤字（▲396万円）を出しました。

大地震・津波・原発事故の影響と、それらをも受けた社会の根底的な変動のなか、新しい公共を担う認定NPO法人となることによって、基金は、さらに一歩前への取りくみを始めるよう社会から要請を受けることになりました。

今期重点事業

1. 路上脱出ガイド ～当事者への情報提供

路上で生活する人が脱路上するための情報をまとめた小冊子「路上脱出ガイド」を、東京では2011年12月に、大阪で は2012 年9月にそれぞれ改定第2版、名古屋、福岡でも改訂版を発行した。東京23区版は、震災以降の行政などの動きの変化をにらみ、制度や窓口の変更箇所を洗い出して掲載した。大阪版では、新たに「路上に出ないためには」という項目を追加し幅広い利用者が使いやすいように、ニートやひきこもりや女性などへの相談先や若者支援団体のなどの掲載窓口を新たに掲載した。

路上脱出ガイド・大阪編

他のホームレス支援団体やボランティアや市民の協力のもと、2009年から東京では37,000部、大阪では12,000部、合計49,000部を配布した。路上配布に加え、路上にいない広義のホームレスの方にも手に取っていただけるよう、ネットカフェ、図書館や教会などへの配置もすすめた。

＜全国の路上脱出ガイド＞

札幌版　東京版　名古屋版　京都版　福岡版

「路上脱出ガイド」は、ホームレスの人に必要な情報の提供にとどまらず、ホームレスと多くの市民やボランティアをつなぐツールともなっている。

現在、札幌・東京・名古屋・京都・大阪・福岡版があり、そのうち東京・名古屋・福岡の地域ではホームページでもダウンロードできるようにした。このため、路上にはいない若いホームレスの方から「ウェブ版を見た」という相談が増えてきつつある。

さらに路上脱出ガイドの認知度が上がり、他機関でガイドを見たと相談に来られる方や、受刑中の方からの冊子の請求も増えている。

※ガイド地域版の問い合わせは12ページの各地サポーター組織へお願いします。大阪版、東京版は必要用部数を無料でご送付できます（但し、送料はご負担願います）。

2. 若者をホームレスにしない ～ホームレス問題解決のネットワークづくり

若者ホームレス自立支援のためのネットワーク構築を目的に、7回の委員会と、3回の市民参加の若者ホームレス支援ネットワーク会議を実施した。その中で、若者支援・障害者支援・児童養護施設などの分野の支援者と若者ホームレス問題について、互いの問題意識やプログラムの共有を行った。

若者ホームレス会議で発言する当事者

この成果を「若者ホームレス白書2」として発行（1万部）、「若者ホームレスの問題」が日本の未来に関わる問題であり、さまざまな社会問題と地続きであることを発信し提言した。その内容は、（第1部）なぜ若者ホームレスが生まれるのか？（第2部）住まい・仕事・居場所・つながり一若者をホームレスにさせない、（第3部）市民とともに考える若者ホームレス問題、そして末尾の資料編には参加された若者支援などの26団体リストを掲載したものとなっている。白書を必要な方には無料でお送りします（但し、送料はご負担願います）。

参加者の意見

若者ホームレス白書2

3. 被災地支援　～被災地NPOと連携事業

前4期における被災地市民活動団体及びNPOへのカンパ、被災地(石巻蛤浜など)への当事者を中心にしたボランティア派遣などに引き続き、11年12月には当事者、理事などが亘理町へ行き被災地とのかかわりを深めた。また、2011年6月から12年5月まで1年間、せんだい・みやぎNPOセンターへスタッフを派遣。派遣スタッフは総務部長として、業務改革をすすめる一方で、仮設住宅での住民自身による新聞づくりの仕組みを提案、勉強会などを行い、活動の下支えをした。また、被災地や被災者を忘れないため「ともに生きよう！東日本」の呼びかけを継続した。

さらに、定期的に仙台などで、ビッグイシュー基金スタッフが現地のホームレス支援団体の活動に参加。支援団体や当事者に聞き取りを行い、企業などの協力も得てその内容をミニコミ「被災地の路上から」にまとめ、計3回発行（計16,000部印刷）した。

このミニコミは、被災地の路上と、被災地以外に住む市民を結び、その時々に必要な支援のかたちを考えるためのツールとして、基金の市民応援会員への送付の他、関連支援団体、一般市民の方々への配布を行った。また、ホームページに掲載し、ウェブでのダウンロードもできるようにしている。実物を必要な方にはお送りします（但し、送料のご負担をお願いします）。

被災地の路上から1

被災地の路上から2

被災地の路上から3

（仙台のホームレス支援団体の声）
震災後の情報をまとめたいと思いつつ、現場の支援で手一杯でなかなかできなかったので、形にしていただいて大変ありがたい。まだ刻々と状況が変わっているので、自分たちも出来る限り、発信していきたい。

（読者の声）
全国から東北に集められた労働者が、ホームレスになっていることは知らなかった。貴重な情報が載せられていると思った。

被災地支援活動

今期活動報告

1．つながって生きる
～ホームレスの自立応援プログラム

（1）当事者への情報提供～大丈夫あきらめない

①路上脱出ガイド

路上ガイドの報告は4ページ参照。

②定例サロン

当事者が主役となり、ホームレスの人々自身の問題を話し合い、また、ボランティアとも交流する場として毎月一回、東京と大阪で定例サロンを開いた。

当事者はビッグイシュー販売者が中心であったものの、一般市民や社会に開かれたミーティングを行い、当事者の自発的でオープンな交流、話し合いや議論の場づくりに挑戦している。この他、サロンではクリスマス 会や新年会などのイベントの他、熱中症対策やカラーコーディネート講座、ファッションショーなども開催し、当事者が生活する上での活力を養う場 ともなっている。

書初めで、今年一年の抱負を書く

定例サロンでの白熱した話し合い

③道端交流会/夜回り

大阪では公園などのホームレスの人々がいる場所に出向き、映画鑑賞会などを企画し、気軽に集える交流会を開いた。毎月1回のペースで、合計70人ほどの当事者の方が参加した。健康相談と日時を合わせることで健診ができ、病気の症状の軽いうちに病院につながった例もあった。また、大阪では、1ヵ月に1回ビッグイシュー日本のスタッフとともに夜回りを行った。ホームレスの方の話を聞きながら、路上脱出ガイドや医薬品、パンやお菓子などの食料を配布した。

ボランティアとの交流

クリスマス会（東京）

④クリスマス・越年の活動など

クリスマスには、大阪で当事者を主人公にした「大阪ホームレスクリスマスパーティ」を開き、東京では12月の夜回りで支援企業のボランティアと共に、路上で当事者にプレゼントと路上脱出ガイドを配布した。

クリスマスパーティー（大阪）

また、越年、越冬の活動では、例年通り新宿での「越年・越冬の取り組み」（新宿連絡会）へ、池袋の「年末年始の炊出し・夜回り」（てのはし）へのカンパを行った。

（2）生活自立応援～普通の暮らしを取り戻したい

①各種相談

大阪では、府保険医協会の協力により、毎月1回内科と歯科の検診を行い内科42人、歯科28人が受診した。またアルコールやギャンブルの依存症的傾向に悩む当事者を、カウンセリングや自助グループにつないだ。福祉相談では、健康を害して病院にかかるため生活保護を申請するケースが多かった。住宅相談では、物件探しなどもサポートし、数名がアパートに入居した。法律相談では大阪では希望者を弁護士につないだ。相談の多くは金銭問題だった。金銭管理では貯金希望される方にはお金を預かり、個別の通帳を作ってサポートをした。大阪では12名、東京では14名が利用している。

またホームレス状態にある人の現在の状況やその変化を把握するために、住宅・就労・健康状況などの観点からアセスメントシートをつくり、聞き取りを行った。

健康相談

②専門性のある他団体との連携

相談内容に応じて、特に依存症などについては、カウンセラー、専門性をもつ他の支援団体やNPOを紹介したり、生活のために必要な諸申請に同行などを行った。

（3）仕事・就業応援～仕事がしたい

①雑誌「ビッグイシュー」販売応援事業

ホームレスの方が、直接、現金収入を得る機会にとどまらず、再就職する前に、就業の基本を身につけてもらう場所としてビッグイシュー誌と連携、その販売者をサポートしている。現在ビッグイシューを全国で販売している販売者は151人(西日本62人/東日本89人)になり、各地のサポーター組織(12ページ参照)と連携し、応援している。

大阪西梅田共同店舗での販売

街頭での販売

②就業応援の連携事業

若者ホームレス支援ネットワーク会議に参加していただいた26団体を中心に、当事者の就労サポートの土台をつくった。前記の他団体と連携し、そのプログラムを活用し就業への応援を行った。また、協力的な企業と協同して働く場の確保に努めている。

③身だしなみなど就業の準備応援など

就職活動やビッグイシュー販売を行うため、身だしなみを整える必要に応えて、東京・大阪で2ヵ月に一度美容師ボランティアの協力でヘアカットや衣服の提供(常時)を行った。

ヘアーカット

（4）スポーツ・文化活動応援～生きていてよかった

①スポーツ活動

サッカーでは、東京と大阪で月に2度の練習や、若者支援団体との交流戦などを定期的に行い、交流の輪が広がった（1年間で30回の練習、のべ140名の選手と332名のボランティアが参加）。

2012年8月末に韓国で開かれたホームレスサッカー日韓戦には東京2人、大阪1人の合計3人が参加し、韓国の選手とサッカーを通じた交流を行った（試合結果は日本2-韓国6）。

フットサル日韓交流戦

（日韓交流試合の参加選手の感想）

昔は1人だった自分が、韓国に仲間と一緒に行くこと自体が有意義な経験でした。それに、行くまでにサッカーを頑張るとか、朝早く起きて風呂入るとかそうした生活習慣も身に着いてきたと思います。韓国の選手の言葉は分からないけど、通訳の人を介して、韓国の選手のこれからの目標などを聞いて自分も頑張っていこう。また会いたいと思えました。（A・T）

フットサル試合風景

②文化活動

ダンス活動では、プロダンサーのアオキ裕キさん指導のもと、週に1度の練習を行い、コンテンポラリーダンスを行っている。第5期は、横浜赤レンガ倉庫や横浜トリエンナーレ、ビッグイシュー名古屋ネットや、ビッグイシューさっぽろの5周年記念イベント、井の頭公園でのパフォーマンスなど、アートシーンへの進出や身近な幼稚園での催しなど公演活動の幅を広げた。

音楽バンド活動では大阪で月2回通常練習を行い、年末のクリスマスパーティーなど、基金主催イベントでのライブやcafé/dinigMAGATAMAでのライブなどに出演。自然エネルギー推進を掲げる音楽イベントの特設バンド「Taiyo33Bigband」のゲストコーラス隊としてレコーディング、ライブにも参加した。2011年12月、2ndシングル「ありがとうソング/again」をリリース。パーティーやライブ会場などで150枚以上を配布した。

大阪ホームレス
ビッグバンドCD

第4期に続き、作家の星野智幸さんを選者とし、第2回目の路上文学賞を実施。路上生活者だけでなく、広義の意味でのホームレス状態の方たちから広く作品を集め、今回は全国の支援団体からの協力もあり、文学部門は40作品、川柳は30作品ほど集まった。受賞作品は冊子にまとめ、ビッグイシュー販売者や各地の支援団体を通じて、希望者へ無料配布（約300部）した。

③その他（鉄道部・つり部・紙芝居・合唱）

今年10月に50回を迎えた「歩こう会」など、をはじめ、当事者が自主的にクラブ活動をつくっている。今期は紙芝居クラブや合唱クラブ、鉄道部、つり部、将棋部などが生まれた。

歩こう会

鉄道部

つり部

紙芝居

（5）東日本大震災の被災地・被災者の支援
～ともに生きる

被災地支援活動の報告は5ページを参照。これら以外に、これまで以下のような活動も行ってきた。チャリティフットサル大会、ホームレスワールドカップ・パリ大会で世界各国からの支援への感謝のプレゼンテーション、福島での若者ホームレス委員会の開催などである。

2.生きやすい社会を整える
～ホームレス問題解決のネットワークづくりと政策提案

（1）若者ホームレス応援ネットワーク
～若者をホームレスにしない

若者ホームレス活動報告は4ページを参照。

（2）政策提案～暮らしの基盤をつくる

4期では「若者ホームレス白書1」、新書本「ルポ　若者ホームレス」などによる調査内容の発信と、政策提言を行ってきた。

5期はひきつづき「若者ホームレス白書2」を発行（1万部）し、広く社会へ提言した。また一般市民への配布の他、ウェブでもダウンロードできるようにした。

また、第6期において、住宅政策について提言できるよう準備作業を進めた。

3. 市民が社会をつくる
～ボランティア活動と市民参加

（1）ボランティア参加プログラム
～参加のチャンスをつくる

①ボランティア参加プロジェクトの開発

東京では月1回、大阪では月2回、ボランティア説明会を開催した。年間で76人が説明会に参加した。2012年8月現在のボランティア登録者数は、大阪が321人、東京が398人になった。東京大阪以外でのボランティア数は195人であり、合計914人となっている。路上脱出ガイドの配布やクラブ活動のサポート、事務所内での作業など、研修や講習の講師や助手、テープ起こし、翻訳など個性豊かなボランティアが活動に参加した。販売者が自発的に行うクラブ活動「歩こう会」にも多数のボランティアが参加した。また、企業から派遣された社員ボランティアが活動に参加するケースも増えている。

発送のボランティア風景

ボランティアの方とそうめんパーティー

②研修機会（インターン受け入れ）

市民の参加機会の一つとして、大阪2人、東京2人のインターンを受け入れた。

③スタッフの海外研修など

若者ホームレスが増えている状況を受け、若者支援の先進国であるドイツの支援方法を学ぶため、内閣府主催の青年社会活動コアリーダー育成プログラムにビッグイシュー基金のスタッフを5日間派遣した。現地の政府・民間団体を10団体ほど訪問し、その手法を学んだ。

（2）寄付参加プログラム～寄付は最も有効な社会への参加

①認定NPO法人取得

NPO法人ビッグイシュー基金は2011年3月より認定NPO法人化への準備を開始、1年4ヵ月間の作業を継続した。この結果2012年7月1日に国税庁から認定を受け、認定NPO法人となった。これにより、基金への寄付は税制優遇を受けられるようになった。

②寄付メニューの開発（市民応援会員、個人寄付者他）

市民応援会員は、
あかぬけ応援会員30人
ぐっすり応援会員193人
にっこり応援会員376人
ひとり立ち応援会員134人
巣立ち応援会員32人

合計765人であった。団体サポーター会員は、社会再生・サポーター会員2団体、キャリア再形成・サポーター会員1団体であった。活動資金の大半を占める市民応援会費と団体サポーター会費は計1,797万円となった。個人寄付者は201人で、寄付総額は、個人と団体からの寄付と合わせて674万円であった。市民応援会員は、いずれも認定NPO法人化による税制優遇を受けられないため、既存の会員へアンケートで意見を聞いて、会員メニューを「にっこり」と「ひとり立ち」の2つに減らした。

にっこり応援会員
年会費：15,000円

ひとり立ち応援会員
年会費：50,000円

新たに認定NPO化に伴う税制優遇を受けられるメニューをつくった。社会でのつながりや参加の度合いと、徒歩からマラソンへの運動をかけ合わせた5つの寄付メニューである。これらは「出会い」「つながりウォーク」「実践応援ラン」「社会包摂マラソン」「市民信頼社会」とネーミングされた。（控除額などの詳細は15ページを参照のこと）

出会い寄付
5,000円/1口

つながりウォーク寄付
10,000円/1口

実践応援ラン寄付
20,000円/1口

社会包摂マラソン寄付
50,000円/1口

市民信頼社会寄付
100,000円/1口

③寄付決済方法の開発（クレジットカード決済）

多くの市民の方に寄付による活動に参加していただけるように、従来の振替や銀行振り込みに加え、ホームページからクレジットカード決済ができるように整備した。

（3）誰もが包摂される社会を目指す～市民社会をつくる

①広報（基金通信・WEB更新・パンフレット更新・SNS）

雑誌「ビッグイシュー」に掲載している基金通信（希望前線）・ウェブ・基金便りというお手紙の3つの媒体を通して、いずれも年24回、リアルタイムに近い形で伝えた。

認定NPO法人の取得により、新たな寄付メニューや市民応援会員の内容などを一新したこともあり、パンフレットやウェブを全面更新した。

また、市民の方がビッグイシューとつながる手段を増やすため、ソーシャルメディアの導入も行い、ツイッターに加え、フェイスブックのページも開設した。

新しいパンフレット

②他NPO団体との連携による包摂社会へのネットワークの形成

若いホームレスが増え、従来の路上生活者に限定した「ホームレス」の定義が変わりつつある中、周辺支援団体との連携は不可欠となっている。

若者ホームレス支援、被災地や被災者支援、路上脱出ガイドの制作や配布、仕事・就業応援、政策提言などの活動は、そのいずれをとってもNPO間の連携、あるいは市民やNPOなどによる問題解決ネットワークづくりを進めて、はじめて可能になるものである。これらのネットワークは包摂社会形成の有力な担い手である。基金は、これらネットワークの形成に寄与しつつ、また助けられて活動を行うことができた。

③国際交流（日韓交流シンポジウム開催）

2011年12月、12年8月の2回にわたり「ビッグイシュー日韓交流シンポジウム」を開催した。シンポジウムでは、日韓の若者をとりまくホームレス問題をテーマに議論を行った。

議論の中で、韓国でも、家庭基盤の弱化や人間関係の希薄さ、さらにはひきこもりの存在や養護施設出身者の施設退所後のケアの問題などから、若者がホームレス化していることが発表された。

ソウル市のホームレス支援団体および弱者支援の社会的企業視察を行い、若者の過酷な状況に立ち向かう政策や団体同士の連携など、日韓に共通する問題について互いに協力を進めていくことを話し合った。

日韓交流シンポジウム

現地の人と交流しました

市民組織・団体・企業のご協力と参加

【各地のサポーター組織】

ビッグイシューさっぽろ http://bisapporo.web.fc2.com/
仙台ビッグイシューソサイエティ / NPO法人萌友
NPO法人仙台夜まわりグループ http://www.yomawari.net/
NPO法人川崎水曜パトロールの会 http://homepage2.nifty.com/kawasaki_sui_patrol/
NPO法人さなぎ達 http://www.sanagitachi.com/NPO法人三多摩ホームレス支援機構/
びよんどネット http://www.ne.jp/asahi/mitaka/beyondnet/
ビッグイシュー埼玉/ビッグイシュー千葉/金沢カトリック教会平和の会
ビッグイシュー名古屋ネット http://d.hatena.ne.jp/bigissuenagoya/
NPO法人釜ヶ崎支援機構 http://www.npokama.org
ビッグイシュー日本京都事務所(社団法人関西厚生協会) / ビッグイシュー広島販売支援 / ビッグイシュー福岡サポーターズ http://blog.goo.ne.jp/bigissue-fukuoka /
ビッグイシューくまもとチーム http://bg-kuma-new.seesaa.net/
ビッグイシューかごしまサポーターズ http://bigissuekagoshima.jimdo.com/

【助成金】

独立行政法人福祉医療機構/独立行政法人国際交流基金/ダイワSRI助成プログラム

【企業・団体寄付】

ブルームバーグ/BNPパリバ/GIVEONE/KDDI株式会社/伊藤忠ホームファッション株式会社 KEEN Japan/UBS(UBS証券株式会社、UBS銀行東京支店、UBSグローバル・アセット・マネジメント株式会社)/ゴールドマン・サックス/シティグループ・ジャパン・ホールディングス株式会社/ドイツ銀行グループ/株式会社北大路書房/共同カイテック株式会社/三井住友銀行ボランティア基金/大和ハウス工業株式会社従業員/日本電気株式会社/ビッグイシュー千葉/有限会社ビッグイシュー日本

【物資の寄付】

伊藤忠ホームファッション株式会社 KEEN Japan(くつ、サンダル)/認定NPO法人フードバンク関西・NPO法人セカンドハーベストジャパン(食料品)/UBS(UBS証券株式会社、UBS銀行東京支店、UBSグローバル・アセット・マネジメント株式会社) (医薬品・食品・衣類など)/ドイツ銀行グループ(金券)/どじょっこ農園佐渡(食品)/ブルームバーグ(日用品)/有限会社キャベ焼グループ(食料、衣料品)/ニューウェル・ラバーメイド・ジャパン株式会社(クーラーボックス)/ポートピアグリーンチーム(衣服・キャリーバック)他

2011年度決算報告

【貸借対照表 2012年8月31日現在】

科目	金額(単位:円)		
Ⅰ 資産の部			
1. 流動資産			
現金	683,799		
普通預金	382,306	1,066,105	
2. 固定資産			
		0	
資産合計			1,066,105
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
借入金	5,000,000		
預り金	27,340	5,027,340	
負債合計			5,027,340
Ⅲ 正味財産の部			
前期繰越正味財産		71,275	
当期正味財産			
増加額(減少額)		△ 4,032,510	
正味財産合計			△ 3,961,235
負債及び正味財産合計			1,066,105

【財産目録 2012年8月31日現在】

科目・摘要	金額(単位:円)		
Ⅰ 資産の部			
1. 流動資産			
現金	683,799		
普通預金(三菱東京UFJ銀行堂島支店)	114,091		
郵便振替	236,412		
普通預金(ゆうちょ銀行)	31,803		
普通預金(三菱東京UFJ銀行新宿支店)	0	1,066,105	
2. 固定資産			
		0	
資産合計			1,066,105
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
借入金(佐野章二理事長)	5,000,000		
預り金(源泉所得税)	27,340	5,027,340	
			5,027,340

【活動計算書　2011年9月1日～2012年8月31日】

科目	金額（単位：円）	
Ⅰ　経常収入の部		
1．会費収入		
年会費	17,970,000	17,970,000
2．助成金・補助金収入		
助成金	8,746,000	8,746,000
3．その他収入		
寄付金	6,744,194	
受取利息	287	
雑収入	369,320	7,113,801
経常収入　計		33,829,801
Ⅱ　経常支出の部		
1．事業費		
人件費		
給料手当	6,623,155	
雑給	4,109,829	
通勤費	816,126	11,549,110
その他経費		
家賃（光熱費含）	2,133,422	
通信運搬費	1,204,823	
消耗品費	1,107,136	
旅費交通費	2,711,689	
印刷製本費	1,541,145	
諸謝金	2,037,611	
租税公課	9,000	
広報費	3,024,000	
会報費	3,263,040	
会議費	965,340	
研修費	8,617	
諸会費	40,000	
寄付金	161,000	
賃借料	1,066,795	
支払手数料	70,084	
雑費	233,489	19,577,191
2．管理費		
人件費		
給料手当	1,238,595	
雑給	446,371	
法定福利費	1,181,651	
福利厚生費	9,450	
通勤費	63,490	2,939,557
その他経費		
家賃（光熱費含）	914,324	
通信運搬費	666,476	
消耗品費	119,484	
旅費交通費	917,070	
印刷製本費	156,250	
租税公課	351,500	
会議費	39,558	
研修費	31,000	
賃借料	175,166	
支払手数料	303,866	
雑費	121,759	3,796,453
経常支出　計		37,862,311
経常収支差額		△ 4,032,510
当期収支差額		△ 4,032,510
前期繰越収支差額		71,275
次期繰越収支差額		△ 3,961,235

注記　1）事業費の内訳

事業費内訳	ホームレス問題解決のネットワークづくり	ホームレスの自立応援プログラム			ボランティア活動と市民参加	事業費計
	生活自立応援		就業応援	スポーツ・文化活動応援		
	若者応援	生活自立他				
人件費						
給料手当	1,335,800	2,606,125	622,465	1,277,250	781,515	6,623,155
雑給	1,901,303	1,492,444	151,281	246,875	317,926	4,109,829
通勤費	114,917	398,923	75,667	150,906	75,713	816,126
人件費計	3,352,020	4,497,492	849,413	1,675,031	1,175,154	11,549,110
その他経費						
家賃（光熱費含）	518,117	670,504	91,432	152,387	700,982	2,133,422
通信運搬費	145,391	112,651	16,620	42,779	887,382	1,204,823
消耗品費	582,654	154,350	0	69,542	300,590	1,107,136
旅費交通費	1,036,821	752,570	33,710	837,908	50,680	2,711,689
印刷製本費	967,245	573,900	0	0	0	1,541,145
諸謝金	1,773,500	144,111	32,000	88,000	0	2,037,611
租税公課	0	0	0	9,000	0	9,000
広報費	0	0	0	0	3,024,000	3,024,000
会報費	0	0	0	0	3,263,040	3,263,040
会議費	295,315	316,233	6,335	322,378	25,079	965,340
研修費	2,800	1,617	0	0	4,200	8,617
諸会費	0	0	0	0	40,000	40,000
寄付金	0	0	0	0	161,000	161,000
賃借料	394,025	328,955	42,000	301,815	0	1,066,795
支払手数料	9,449	4,425	525	16,465	39,220	70,084
雑費	0	7,634	34,200	191,655	0	233,489
その他経費計	5,725,317	3,066,950	256,822	2,031,929	8,496,173	19,577,191
事業費計	9,077,337	7,564,442	1,106,235	3,706,960	9,671,327	31,126,301

注記　2）借入金の増減内訳

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
借入金（流動負債）	0	5,000,000		5,000,000
合計	0	5,000,000	0	5,000,000

注記　3）役員及びその近親者との取引の増減内訳

科目	財務諸表に計上された金額	内役員及び近親者との取引
借入金（貸借対照表）	5,000,000	5,000,000
貸借対照表計	5,000,000	5,000,000

監　査　報　告

1　監査の方法の概要

業務執行については、代表理事等から、現在会員数、活動内容等を聴取し、財産の状況については、損益計算書、貸借対照表の開示及び説明を受けました。他方、適宜、総勘定元帳、入金伝票、領収書、通帳の写し、郵便振替票等につき検討を加えました。

2　監査の結果

特定非営利活動法人ビッグイシュー基金の業務報告及び決算報告について、２０１１（平成２３）年９月１日から２０１２（平成２４）年８月３１日までの監査を行った結果、客観的資料にもとづき明瞭かつ正確であって、適法であることを認めます。

なお、業務または財産に関して、指摘すべき、不正の行為または法令、定款違反の重大事実は認められません。

２０１２（平成２４）年１０月１２日　　特定非営利活動法人ビッグイシュー基金監事

木　原　万　樹　子

ビッグイシュー基金とは

ビッグイシュー基金とは ―――

ビッグイシュー基金は、有限会社ビッグイシュー日本(※)を母体に07年9月に設立した、ホームレスの人々の自立を応援する非営利団体です。12年7月1日に認定NPO法人となり、当基金への寄付は税制優遇されることになりました。

当事者への情報提供、生活自立、就業、文化・スポーツ、被災地支援、問題解決のネットワークづくり、市民の社会参加活動などの多様な応援プログラムを、市民とともに実施します。貧困問題という氷山の頂点にあるホームレス問題の解決を通して、誰もが居場所と出番を持てる包摂社会の形成をめざします。

ビッグイシュー基金が目指すもの ―――

ビッグイシュー基金は、社会的企業である㈲ビッグイシュー日本の、自立の支援、モノやおカネではなく「チャンス」の提供、ホームレスをビジネスパートナーにする、という事業を母体に生まれました。基金は多くのNPOや企業や政府とも協力してホームレスの人々が一層の「自助」、「自立」ができるようサポートすることを基本理念として活動します。

また、市民応援会員をはじめ市民寄付者などを中心に、多くの市民の意向を尊重しながら、市民同士の共同を促進し、市民が当事者になれるような活動を行いつつ、再チャレンジしやすい「機会の豊かな」市民信頼社会の形成に貢献したい、と考えています。

そして、ホームレスの人々に対して情報提供、生活自立、就業、スポーツ文化活動、被災地支援など自立の応援をします。また、ホームレス問題解決のネットワークづくりや政策提言、さらに、市民の方へのボランティア活動など社会参加機会の提供、の3つの基本応援プログラムを持って活動します。

さらに、ホームレスの人々もまた、望めば「ホームレス(H. L)人生相談」をはじめ、「H. Lダンス」「H. Lサッカー」「H. Lバンド」「H. L写真展」「H. L文学賞」「H. L川柳」「H. L共同経営店舗」などへ参加してもらえます。そして、当事者として、表現し、生きる喜びや誇り、希望をもてるようになり、自ら問題解決の担い手になってもらいたいと考えています。

このような活動を通して、社会全体がいきいきとした力を取り戻せるようホームレスの人々とともに貢献したいと願っています。

団体概要

□ 名　　称　認定NPO法人　ビッグイシュー基金
□ 設　　立　2007年9月設立、2012年7月認定取得
※2008年4月内閣府よりNPO法人の認証を受ける
□ 所 在 地　[事務局本部]
〒530-0003大阪市北区堂島2丁目3-2堂北ビル4階
Tel　06-6345-1517　　Fax　06-6457-1358
E-mail　info@bigissue.or.jp
[東京事務所]
〒162-0065 東京都新宿区住吉町8-5シンカイビル201号室
Tel　03-6380-5088　　Fax　03-6802-6074

□ 役　　員　理事長　佐野　章二　(有限会社ビッグイシュー日本代表)
理　事　井上　英之　(慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科特別招聘准教授)
枝元　なほみ　(料理研究家)
米本　昌平　(総合研究大学院大学教授)
水越　洋子　(『ビッグイシュー日本版』編集長)
監　事　木原　万樹子　(弁護士)
相談役　雨宮　処凛　(作家)
松繁　逸夫　(釜ヶ崎資料センター主宰)
□ スタッフ　長谷川　知広　瀬名波　雅子　北野　里実
津端　幸江　　高野　太一

有限会社ビッグイシュー日本とは？

ビッグイシュー日本は、「ホームレスの人々の救済ではなく仕事を提供する」ことを目的に活動している有限会社です。ホームレスの人々の自助・自立を促すために路上で雑誌を販売してもらい、その売上の50%以上を彼らの収入にするという仕組みをつくっています。

03年9月から12年8月までの9年間で1369人が販売者に登録し、156人が仕事を得て自立しました。また、累計538万冊を販売、7億4749万円の収入をホームレスの人たちに提供してきました。

認定NPO法人ビッグイシュー基金へのご寄付は税制優遇されます。

市民応援会員

特典があります。（税制の優遇対象外）

にっこり応援会員　年会費：15,000円

【特典】 年次報告書（年1回）の送付
「ビッグイシュー基金通信」掲載『ビッグイシュー日本版』1冊1年分の送付 ＆最新号にお名前を掲載

ひとり立ち応援会員　年会費：50,000円

【特典】 年次報告書（年1回）の送付
「ビッグイシュー基金通信」掲載『ビッグイシュー日本版』1冊1年分の送付＆雑誌に1年間お名前を掲載 、ビッグイシュー基金パーティにペアでご招待（年1回）

企業・団体「社会再生」サポーター

特典があります。（税制の優遇対象外）

キャリア再形成・サポーター会員　年会費：250,000円

【特典】「ビッグイシュー基金通信」掲載雑誌『ビッグイシュー日本版』に1年間貴社名を掲載、「ビッグイシュー基金通信」掲載雑誌1冊1年分の送付、ビッグイシューバックナンバー合本（非売品）の贈呈、年次報告書の送付（年1回）、ビッグイシュー基金パーティにペアでご招待（1回）、ビッグイシュー定例サロンの見学

社会復帰・サポーター会員　年会費：500,000円

【特典】キャリア再形成・サポーター会員の特典に加えて、貴社の社員研修会への販売者やスタッフの講師派遣（年1回）、社員研修の一貫として、販売者の指導による1日街角販売体験（道端留学）、ビッグイシュー基金のホームページに貴社名を掲載

社会再生・サポーター会員　年会費：1,000,000円

【特典】 社会復帰・サポーター会員の特典に加えて、販売者参加のイベント（ダンス公演・コンサート・サッカー）のうちご希望の1つに協賛企業として貴社名を掲載

寄付

税制優遇の対象です。寄付額の「（寄付金合計額−2千円）×40%」が納付税額から返金されます。（雑誌送付などの特典なし）

出会い寄付　5,000円/1口
（控除額は1,200円です）

つながりウォーク寄付10,000円/1口
（控除額は3,200円です）

実践応援ラン寄付20,000円/1口
（控除額は7,200円です）

社会包摂マラソン寄付50,000円/1口
（控除額は19,200円です）

市民信頼社会寄付100,000円/1口
（控除額は39,200円です）

- ●任意額寄付　事務手続き上1,000円からの受付となります。
- ●法 人 寄 付　損金参入限度額の枠が拡大されます。
- ●マンスリー寄付　月額1,000円×1口～。（HPから受け付けています）
- ●遺産・相続寄付　寄付された相続財産には相続税がかかりません。

＜振込み＞
郵便振替：　口座番号　00960-6-141876
　　口座名義　NPO法人ビッグイシュー基金
お振込みの際は寄付・会員の別、連絡先（お名前、郵便番号、ご住所、電話番号）を明記ください。

＜クレジットカード＞
ビッグイシュー基金のホームページ（http://www.bigissue.or.jp）からご利用いただけます。

銀行での振込みをご希望の場合は、大阪事務所（06-6345-1517）までお問い合わせ下さい。

※個人の方のご寄付の領収書は1月～12月(2012年のみ7月～12月)分をまとめて翌年1月下旬に発行・送付させていただきます。

ともに生きよう。3.11
WE ARE WITH YOU.

THE BIG ISSUE JAPAN FOUNDATION
ビッグイシュー基金

2012年12月1日発行

認定NPO法人ビッグイシュー基金

（大阪事務所）〒530-0003　大阪市北区堂島2丁目3-2堂北ビル4F
TEL：06-6345-1517　FAX：06-6457-1358
（東京事務所）〒162-0065　東京都新宿区住吉町8-5
シンカイビル201号室
TEL：03-6380-5088　FAX：03-6802-6074

E-mail：info@bigissue.or.jp　URL：http://www.bigissue.or.jp